

社会的な連帯とグローバルなつながりの強化

世界ソーシャルワークデー

#WSWD2021



APASWE アジア太平洋ソーシャルワーク教育連盟
Asian and Pacific Association for Social Work Education



東アジア小地域オンライン APASWE シンポジウム(世界ソーシャルワーク月間企画) 新グローバルアジェンダにおける社会連帯と東アジアにおけるコロナ禍 — ソーシャルワーク教育に何ができるのか —

日時

2021年3月26日(金)、北京時間14時・ソウル及び東京時間15時

特別協力 ・一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟

・日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(B)「多文化共生ケアシステムにおけるグローバルソーシャルワークの理論的・実証的研究」(19H01590)

開会挨拶と導入説明

デイビッド ローズ

メルボルン大学

APASWE事務局長

シンポジウム概要と趣旨説明

ヴィラーグ ヴィクトル

長崎国際大学

APASWE理事

ソーシャルワークと社会開発のグローバル・アジェンダ

- 3つの専門的なグローバル団体のアドボカシーと行動のための主要なプラットフォーム
 - 国際ソーシャルワーク学校連携 (IASSW) ➡ APASWEのグローバルなパートナー団体
 - 国際社会福祉協議会 (ICSW)
 - 国際ソーシャルワーカー連盟 (IFSW)
- 実践者及び教育者が、社会的、経済的、政治的、環境的な分野における優先事項について、団結、推進し、意見を述べ、明確化を図り、合意するためのまたとない機会を提供



2010-2020年のグローバル・アジェンダの4本の柱

- 社会的及び経済的平等
- 人々の尊厳と価値
- 持続可能なコミュニティ及び環境
- 人間関係の重要性



2020-2030年のグローバル・アジェンダ 枠組み 包摂的な社会変容の共同構築

- 新しい枠組みは、全ての人々の強みの称賛と持続可能な開発をリードするために彼らの積極的な役割の促進の必要性を認識し、コミット
- 全ての人々の声の傾聴と、特に疎外されやすい人々の積極的な参加を促進
- 各国でもグローバルにも、全ての人々の普遍的な権利、機会、自由、そして持続可能な幸福を促進するよう、政府と人々の間に新しい社会的合意の形成も念頭に

2020-2022年の第一期のテーマ

ウブントウ: 社会連帯とグローバルなつながりの強化

- 社会連帯を強化し、グローバルなつながりを認識するための原則は、全ての人々と環境の間にある責任を強調し、共有された持続可能な未来のための根幹
- 新しい社会的合意を形成する包摂的なプロセスを促進するための基盤
- 「ウブントウ: 我々が存在する」はアフリカの概念で、ネルソン・マンデラによって世界中に普及
 - 全ての人々と彼らを取り巻く環境の相互関係という専門的な視点を表現
 - 地域・民族固有の知を強調



背景(1)

- コロナ禍がグローバルな相互関係の現実と社会連帯の価値を浮き彫りに
- コロナ禍の影響と教訓のみでなく、経済的・社会的不平の長年にわたる現実、また社会保障の失敗と続く社会的不正義を認識する必要
- 人権、平等、社会正義を尊重する社会組織の新しい在り方が必要

背景(2)

- 家族などの小集団レベルでの有機的な連帯とグローバルな多層的連帯が全ての人々の健康、安全、ウェルビーイングの保障に不可欠
- グローバル・リージョナル・ナショナル組織は、全てのレベルであらゆる形態の連帯について言及し、明確化し、概念化し、実践するために協働していくことが重要
- 連帯は、例えば家族や友人関係のような小集団における基本的な人間的連帯から、地域期間や専門職団体の組織的連帯まで様々な理解が可能

連帯の捉え方の例(1)

- **グローバルな連帯**は、コロナ禍と向き合い、**多国間主義と平和構築の重要性に焦点をおいて** 経済を再建する**集団的な責任**について指摘
- **地域社会の連帯と国家の役割**は、**経済的・健康的・福祉的な安全へのアクセスを確保するための社会保障メカニズム**について提示
- **技術と知識の連帯**は、現代社会において**社会正義に知識的正義も欠かせないため**、**知識と技術へのアクセスを保障するための知識の共有と技術的支援**を意味

連帯の捉え方の例(2)

- **世代間の連帯**は、特に地球の物的資源を含めて、資源の平等な世代間配分として解釈(環境的正義と同意味)
- **地域社会の連帯**において**全ての人々の尊重**では、共有された脆弱性に対処し、必人種差別、スティグマ化、孤立、差別に対して社会部門が人権尊重の促進と仲介によって挑戦することが期待
- 連帯に対して**その他の捉え方も可能**

本日のテーマと目的

新グローバルアジェンダにおける社会連帯と東アジアにおけるコロナ禍：ソーシャルワーク教育に何ができるのか

- 答えを探る4つの問い：
 - 東アジア(日中韓)では「社会連帯」をどのように捉えるか。
 - 東アジア(日中韓)では「社会連帯」を妨げる要因はどのようなものがあるか(従来から一般的に、また特に現在のコロナ禍において)。
 - これらの要因を克服し、「社会連帯」を促すために、ソーシャルワークの教育者(及び学生)の役割(及び行動)はどのようなものが考えられるか。
 - コロナ禍による制限の下で、ソーシャルワーク教育はどのようにすれば「社会連帯」について教え、促すことができるか。
- 3各国報告(各20分)後にディスカッションと質疑応答(30分)

参考文献

- IASSW, ICSW & IFSW (2020) *Press Release – Global Agenda for Social Work and Social Development*, International Association of Schools of Social Work, International Council for Social Welfare & International Federation of Social Workers.
- IASSW, ICSW & IFSW (2020) *Strengthening the Global Agenda 2020-2030 during the Global Pandemic Crisis and Beyond: Revised Global Consultation*, International Association of Schools of Social Work, International Council for Social Welfare & International Federation of Social Workers.

韓国報告

イム ジョンウォン
江南大学

イム・ジョンウォン博士は、江南大学社会福祉学部の教授である。また、同大学未来福祉集中研究所の所長であり、韓国精神腫瘍学会の執行理事でもある。以前、ケース・ウェスタン・リザーブ大学で助教として勤務し、シティ・オブ・ホープ国立医療センターでリサーチ・フェローを務めた。研究テーマは、がんサバイバーシップと福祉テクノロジーである。

日本報告

和気 純子

東京都立大学

和気純子博士は、東京都立大学の教授である。日本ソーシャルワーク教育学校連盟の副会長で、IASSWの理事会において日本代表を努めている。また、日本社会福祉学会の副会長と日本ソーシャルワーク学会の理事でもある。関心分野は、高齢者ソーシャルワークと国際ソーシャルワークである。

中国報告

沈 黎

上海師範大学

沈黎博士は、上海師範大学の准教授で、ソーシャルワーク修士課程の主任である。また、中国ソーシャルワーク教育連盟においてスーパービジョン委員会の副委員長兼事務局長、また上海ソーシャルワーカー協会倫理委員会の委員長を務めている。研究テーマは、ソーシャルワークにおける倫理とスーパービジョンである。

ディスカッションと質疑応答

藤岡 孝志

日本社会事業大学

APASWE会計担当理事

ヴィラーグ ヴィクトル

長崎国際大学

APASWE理事

本セミナーの4つの課題

- 東アジア(日中韓)では「社会連帯」をどのように捉えるか。
- 東アジア(日中韓)では「社会連帯」を妨げる要因はどのようなものがあるか(従来から一般的に、また特に現在のコロナ禍において)。
- これらの要因を克服し、「社会連帯」を促すために、ソーシャルワークの教育者(及び学生)の役割(及び行動)はどのようなものが考えられるか。
- コロナ禍による制限の下で、ソーシャルワーク教育はどのようにすれば「社会連帯」について教え、促すことができるか。

総括コメントと閉会挨拶

ズルカルナイン ハタ
リンカン大学カレッジ
APASWE会長